

農芸同窓会会報

編集・発行
三重県立四日市農芸高校
同窓会事務局
〒510-0874
四日市市河原田町2847
TEL 059-345-5021
FAX 059-345-6996

母校の地域社会貢献 活動を讃える

同窓会会長 大泉 源之
(河高第五回・昭和二十八年卒)



同窓会会員の皆様は、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は本会の運営に、学校活動などにご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

地域から期待される農芸高校の さらなる発展をめざして

校長 竹森 淳二



師走、何かと気ぜわしいこの頃となりましたが、会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校教育活動に対して物心両面にわたる心からのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて農業教育と家庭科教育に取り組む四日市農芸高校が果たすべき役割は、学校生活をとおして豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育てることにあると考えています。そんな中、今年も実りの多い一年となりました。毎年8月に実施しています。

中学3年生対象の学校説明会には、近隣の中学生がたゞさん本校に来てくれ、年々その参加者が増えています。10月には高校での実習等を体験する「高校生活入門講座」を実施し、同様に多くの参加者を得ています。このことが目的意識を持って入学してくれる生徒の増加を生み、入学後の勉強や部活動への積極的な取り組みにつながっていると感じています。

農業学科では、日本学校農業クラブ全国大会(長野大会)で、農業鑑定に出場した5名の生徒全員が「優秀賞」に輝き、本県農業クラブ年次大会で実施されたフラワープランジメント競技会に「最優秀賞」を獲得した生徒が、全国産業教育フェア(岡山大会)に出場しました。三重県産業教育

振興会研究文コンクールでは「会長賞」を受賞し、同じく産業教育に関する作文では「優秀賞」を受賞しました。また、日頃の学習活動の一環として、河原田小学校の児童に本校生が田植えや稲刈りの体験を指導したり、地域の方々から草花の栽培を指導しています。定期的にJA河原田支店の敷地をお借りして「みのりの丘マーケット」を開き、農場生産物の販売をしています。さらに、今年度より県教育委員会の事業の「志」と「匠」の育成推進事業(若き「匠」育成プロジェクト)に係る研究校に指定され、造園業界等と連携し、若手職人の育成を図るとともに生徒の就業意識を高め、高度な技能や資格を取得し、技能五輪への出場に挑戦していく取り組みを始めました。

生活文化科では、服飾経営コースの生徒が従来から学んできた染色浴衣の作品を全国きもの作品コンテストに出品したところ、「文部科学大臣賞」と「京都市長賞」を獲得するという快挙を成し遂げました。また、高校生デザイン画コンクールでの「入賞」、三重県ホームプロジェクトコンクールでの「最優秀賞」「優秀賞」の獲得、三重県おさかな料理コンクールでの「努力賞」「入選」の獲得、産業教育に関する作文での「優秀賞」受賞といった結果を残してきました。また、日頃の学習活動として、地域の一人暮らしの高齢者の方にお弁当を作り、届ける「デイサービス」の取り組み、地元小学生を対象としたお菓子づくりや手芸等の生徒による指導、地域の農家の女性団体との交流を通じ、郷土料理や梅干し漬け、豆腐作り、お節料理等の指導を受け、食文化の伝承を担っていく取り組みなどを行っています。また、服飾店を経営し、独自ブランドを持つておられる地元のデザイナーの方や、洋菓子店を経営されているパティシエの方、和菓子店を経営されている職人さんなどを招いて指導を受け、多くの地域の方の力を借りながら、

ら、スペシャリストを育む教育活動を展開しています。一方、部活動においても県総体ではラグビー部、バスケットボール部男子が準優勝、柔道部女子が3位、同じく個人78キロ級では優勝し、インターハイに出場しました。さらにソフトボール部女子、バレーボール部女子、バドミントン部女子がいずれも5位に入る好成績を残しています。文化部でも放送部のアナウンス部門で全国高校放送コンテストに出場したり、近畿高校総合文化祭で優秀賞を獲得したりと活躍してくれています。吹奏楽部は地域のイベントに引っ張りだこで、地域に愛される楽団に育っています。学習面や部活動などいろいろな場面で一生懸命努力し挑戦する農芸生の姿に、頼もしさを感じています。

農芸祭公開日は生憎の雨になりましたが、たくさんのお客様に来ていただき、日頃の生徒達の学習の成果を見ていただくことができました。今年度は新しい試みとして、非公

農芸高校の充実と 発展をめざして

教頭 坂倉 忠男



師走を迎え、同窓会員の皆様をおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、本校教育活動に温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。平成24年度は、竹森校長の挨拶にもごさいいますように、農業教育並びに家庭科教育が、例年以上の大きな成果を収めております。その成果を下支えし、様々な教育活動を推進するために、県教育委員会よりいくつかの事業指定を受けて支援をいただいております。そのうちの主要な四事

業について取り組みの概要を紹介させていただきます。まず、「平成24年度県立学校創設活動支援事業」の指定を受け、地域や学校関係者と連携・協力して「開かれた学校づくり」につながる取り組みを進めています。本校では、以前よりマコモタケの栽培研究に取り組んでいました。マコモは、収穫期間が短期に集中し、鮮度を保つことが難しく、商品化に課題がありました。昨年度、生徒の発案でレトルトカレー(マコモタケカレー)を商品化しました。今回、同事業により、地域の皆様から幅広くご意見をいただき、新たなカレーの開発に取り組みすることにしました。10月31日に開催した「第7回みの

第三点目は、「キャリア教育実践プロジェクト事業」の指定を受け、二年生の生徒全員を1月末に数日間、企業や事業所等へ体験実習に出向かせるいわゆる「インターン」

第四点目は、「若き『匠』育成プロジェクト事業」の研究指定校に採択されました。本事業により、平成27年度にかけての4年計画で造園に関する若手技術者の育成に向け、「技能五輪」出場も目標の一つに掲げて、地域の造園業界からのご協力を得ながら取り組みを進めてまいります。関係各位のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。こうした諸事業も活用させていただきながら、より充実した教育活動を展開すべく努力を続けているところであります。私自身、生徒たちの「笑顔と感動」にあふれる農芸高校であり続けるよう、微力ですがその責務を果たしていく所存でございますので、どうかよろしく御願ひ申し上げます。



平成15年度卒業生により寄贈された、みのりの丘グリーンパークイラストマップが平成23年度卒業生の寄贈により、平成24年3月リニューアル致しました。
(南門(通用口)入って左側、食品棟東壁面に設置されております)

卒業50周年記念同窓会のご報告

平野 昭喜

(高校第十四回・昭和三十七年卒)



私たち四日市農芸高校第14期卒業生は、昭和34年春に四日市農芸高校に入学いたしました。その年の9月26日に、あの「伊勢湾台風」が東海地方を中心に襲来し、甚大な被害をもたらしました。従って、我々が卒業したのは昭和37年の春でしたから、実に50年が経過いたしました。

が、正直なところ、卒業後半年ほど経った頃将来の不安や同級生との語らいを経て、結果的には近く(但し岐阜県南濃町)の農協に入組しながらの兼業農家になりました。その後の20年・30年はごな

当時の母校は、A組「一般農業科」、B組「園芸科」、C組「畜産科」、D組「家庭科」の1学年4組で169名の生徒数でした。当時の男子は農家の長男が大半で、私も親の意向に沿って大きな迷いもなく本校を選びました。

開催日程は卒業後50年を経た平成24年10月20日。場所は桑名シティホテルとし、以来

5回程の幹事会で、開催要領・参加費・資料作成などを検討しました。前回の四日市から名簿の提供を受け、生存者151名には9月1日に開催案内のハガキを郵送。10月10日まで約三分の一の52名の参加が決まりました。

開催の当日は、遠くは奈良県や志摩市からも同級生が駆けつけ、受付フロアは懐かしい顔が溢れましたが、さすがに50年の歳月が流れて名前や顔がわからず、「あなたは誰?」と問いかけるような姿が散見されました。別室で卒業50周年の集合写真」を撮影して立食パーティの宴席に入り、冒頭、故人となられた12名の方へ黙祷を捧げました。宴会の席には、テーブルに2013学校案内(母校から提供)と同窓生名簿とともに、今回は全員の「近況報告」を報告集として纏めたものを配布しました。これは返信はがきの中に〇〇さんに宜しくとか、現在も自営で仕事の紹介を依頼する文面もあって、幹事会で相談の上返信はがきをコピーして配布することにしました。

また宴席の前半で、本校の後輩たちがラクビーで活躍していること、新聞に掲載された「まこもたけカレー」商品化の内容などを同窓会から紹介しました。宴席は和やか且つにぎやかに進み、お互いの体調や孫の自慢話に加えて日頃の野菜作りや旅行友達の話など大いに盛り上がりました。宴の後半では50年ぶりに母校の校歌を全員で歌い、続いて「高校三年生」学園広場」を合唱しました。お互いに白くなったり薄くなった頭を交えて、あと10年いや20年は頑張れると励ましあい、2時間半の宴席はあっという間の出来事でした。名残は尽きませんが、来年はみんな「古希」を迎えます。次回「孤野地区」での再会を約束して散会いたしました。



四日市農芸高校50周年記念同窓会 H24.10.20 於 桑名シティホテル

額の汗の尊さ

横山 仁司

(高校第十五回・昭和三十八年卒)



さて、私は、在学中は野球部に所属し捕手として地下足袋で練習した日々が今なお懐かしく思い出されます。

また、学校卒業後は、当時農業の大きな転換期であり、大型農業化へと進む中、一方、日本経済の高度成長期を前に企業の求人ニーズが高く、父母が経営する養豚業を継ぐか就職するか随分と悩みましたが、結果として電電公社(後のNTT)へ就職しました。

NTTへ就職してからは、電気通信産業へ就職することになったことへの抵抗が随分あったと記憶しております。以後、四十四年間、奉職し自身自身が得たもの。それは、人と人との出会いであり、校歌の一節にもある「額の汗の

私は、現在社会福祉法人伊勢亀鈴会という「障がい者支援施設」に勤務しております。この施設は、同じ十五回生として卒業した小林 充君が初代理事長として昭和五十七年に創設した施設で、私が二代目として平成十九年に就任しました。

三重県下に十三事業所、五百二十七名の身体に障害を持たれる利用者の皆さんを百五十名の職員と共に、生活・就労支援を担当させて頂いております。

三重県下には、三十三事業所、五百二十七名の身体に障害を持たれる利用者の皆さんを百五十名の職員と共に、生活・就労支援を担当させて頂いております。

三重県下には、三十三事業所、五百二十七名の身体に障害を持たれる利用者の皆さんを百五十名の職員と共に、生活・就労支援を担当させて頂いております。



生活文化科の近況報告

家庭科主任 細川美和子

各コースの特徴を生かして各種コンクールへの応募や、地域連携事業をすすめています。地域連携は、生活関連産業で活躍できる人材育成の一環として、地域の方々にご協力いただきながら生徒の学力と人間性を育む活動となっています。

入賞者紹介

●2012全国高校生デザイン画コンクール

入賞 (3年) 加藤 奈美さん (3年) 滝井 伶奈さん
(3年) 土田 千湖さん (3年) 樋口 菜月さん
作品展示 (3年) 森 幸穂さん

●第23回きもの作品コンテスト

文部科学大臣賞 (3年) 伊藤 百香さん
京都市長賞 (3年) 土田 千湖さん

●第9回三重県ホームプロジェクトコンクール

最優秀賞 (3年) 辻 麻友夏さん
優秀賞 (3年) 杉田 知優さん (2年) 山路 麻依さん
(3年) 伊藤 百香さん (3年) 伊藤 りささん
(2年) 大川 美優さん

●三重県おさかな料理コンクール

努力賞 (3年) 坂口 亜沙美さん
入選 (3年) 安達 春香さん (2年) 松岡 江梨菜さん

●産業教育に関する研究文・作文コンクール

<作文>家庭部会 優秀賞 (3年) 岡 ゆりさん

●第4回ゆかたデザインコンテスト

優秀賞 (3年) 加藤 奈美さん
入賞 (3年) 滝井 伶奈さん (3年) 土田 千湖さん

●第4回かむかむクッキングコンクール

入賞 (2年) 金野 あやねさん (3年) 西村 優花さん
(3年) 小林 みどりさん



きもの作品コンテスト

最優秀賞・文部科学大臣賞受賞
優秀賞・京都市長賞受賞



きもの作品コンテストの報告 服飾経営コース主任 濱口 理佳

服飾経営コースでは、染色浴衣に取り組んでおり、2年生の時に反物を染め、3年生になって浴衣に仕立てます。今年度、一般社団法人日本和裁士会主催第23回きもの作品コンテストにおいて、伊藤百香さんが最優秀賞(文部科学大臣賞)を、土田千湖さんが優秀賞(京都市長賞)をそれぞれ受賞し、新聞各紙で取材いただきました。

伊藤さんは明るい和と壮大感を、土田さんは辰年に因んで、力強い龍をイメージし攻撃的かつ美しさを作品に表現しました。



地域連携

- デイサービス(年間6回)
- 河原田地区セミナー
- A g r i ロマンサルビア四日市の皆さんからの授業
- ミュージックベル交流会
- いきいきサロンへの参加
- 学童保育所体験実習
- J A 全農みえ様との連携
- 桑名菓実作会様との連携 等

一生懸命頑張ること

柔道部監督 山下 浩司

私が農芸高校に就任してもう八年目になります。近年は部活動の実績や農芸高校のブランドというか指導方針に共感して意欲のある競技力の高い選手たちが、ラグビー部をはじめバレー部やバスケットボール、バドミントンなどのクラブに入部してくるようになりました。状況を早する運動部の中で着任当時も今も柔道部への入部者は女子が中心で、初心者同然の選手たちばかりという状況は変わりました。

そんな柔道部の女子選手たちが今年は大きな仕事を成し遂げてくれました。

4月の県高校選手権女子団体二回戦、優勝候補筆頭の名張高校との対戦は先鋒が開始早々見事な大内返しで一本勝ち。無敵といわれこの一年間相手チームに一点も与えず完全勝利を飾ってきた名張高校の出鼻を挫き会場を沸かせた試合でした。結果は中堅、大将と取られて1対2の逆転負けでしたが、大いに手応えを感じた試合でした。

迎えた県総体女子団体では一回戦尾鷲高校に3対0、二回戦で昨年ベスト4に残り東海総体に出場している四日市工業に3対0と圧勝してベスト4に進出。準決勝では名張高校に一步及ばず負けてしまいました。見事東海総体への出場権を獲得することができました。

さらに女子個人戦でも大健闘をみせ48kg級第3位、57kg級第3位、78kg級優勝と出場6選手中3人が入賞することができました。

その結果クラブ後援会をはじめ多くの方々のご厚意を受け今夏は三重県代表として東海総体はもちろん富山県で行われたインターハイにも参加させていたことができた。自分たちの精一杯の力を出し切ること、簡単なことですが、なかなかできることではあります。毎朝5時前に起きて朝練に通った選手、練習試合では全く歯が立たず、投げられ続けて心が折れた日。真夏のうだるような道場で汗みれになってひたすら稽古に励んだ日々。そんな中でも夢を失わず、元気を忘れず、努力が報われることを信じて頑張った選手たちに心から拍手を送るとともに、華やかな宣伝も大応援団もなければいけません」と選手たちが変わって報告させていただきます。



選手・監督入口
ありがとうございます。今後ともご声援いただければ幸いです。

魅せてくれた雑草魂

ラグビー部監督 下村 大介

ノーサイドの笛が響いた瞬間、複雑な心境でした。第九十二回全国高校ラグビーフットボール大会・三重県大会決勝は24対38で朝明高校が三たび三度目の花園出場を決めて幕を閉じました。

四日市農芸高校ラグビー部は、昨年度県内無敗・東海総体優勝・全国選抜大会出場(震災で中止)・国体全国五位・花園ベスト16(県勢初のBシード選出)と歴代最高とも言える成績を収めました。しかし今年のチームは、二月の新人戦・五月の県総体共に朝明に敗れ、準優勝。東海でも準優勝止まりで、年間を通しての戦績(含練習試合)も勝率四割(昨年は八割)と負け越していました。その影響もあって、チーム全体が自信を持てずにいました。少し強い相手には、気後れして力を出せずに負ける試合が多く、練習でも全力を出さずに叱られ、また自信を無くすという悪循環でした。「何が足りないのか...」と悩み、考え抜

いた結果、出てきた答えは、「心・技・体のうち心が弱い」ということでした。

まず、「心」を鍛えるの為にやった事は、持久走です。長距離を全力で走る為には強い精神力が不可欠です。週に二回のペースで三千メートル走の記録を測定し、「ベストタイムより十秒以上遅いとペナルティーでまた走る。」というプレッシャーを与えて走らせました。お蔭で校内ロードレース大会では、男子優勝・準優勝と上位二十名以内にラグビー部が十二名入り、女子マネージャーまでが三位と七位に入賞してくれました。他にもメンタルトレーニングや、桑名の有名な居酒屋「てっぺん」の朝礼をやって頂いたり、「これでもか」と言わんばかりに、刺激を与え続けました。しかし、今一チームに変化が見られず、一体感の無いまま準決勝が終わり、またしまいました。残り一分を切り17対38と完全に勝負がついたことから、農芸は約

五分間ボールを前に前に押し進めました。そしてロスタイムの後半三十四分、見事に意地のトライを決めました。農芸生約五百人と先生方。保護者や卒業生を入れた約千人の大応援団の声援がピッチの選手達に大きな力を与えてくれたのです。

ゴールが決まり、続けてノーサイドの笛が響きました。私は負けた悔しさと、弱

かったこのチームが最後に「雑草魂」を見せてくれた喜びを同時に味わいました。そして、最後まで彼らを信じ声援を送ってくださった皆さんに心から感謝しました。

「本当にありがとうございました。」来年こそは皆さんに喜んで頂けるよう、また一から頑張りますので、今後共応援よろしくお願い致します。

県大会決勝ではご声援ありがとうございました。お蔭様で二十三年連続の決勝進出でした。今後共、ご支援・ご声援よろしくお願い申し上げます。



農業学科の近況報告

農業部主任 森下善郎

平成 24 年度

今年度も農業部として生徒の自主的な活動の充実や地域社会との連携を強化したさまざまな取り組みを行ってきました。

1. ファームステイの取り組み

●長野県ハケ岳農業実践学校

三重県農業教育振興会主催のファームステイに本校の生産コース3年谷重恵未さん、森優奈さん、杉本隆治君の3名の生徒が参加をし、冷涼な高原に位置する農場で、セロリの管理実習を中心に4日間学んできました。



●ニュージーランド

全国高等学校農場協会が推薦するニュージーランドファームステイに食品コース3年の長野葉月さんが参加をしました。広大な牧場で10日間酪農実習を行ってきました。

●類農園

2年生産コースの川上駿季君が伊勢にある農業法人類農園で、7日間アイガモ農法を営んでいる水田において稲作の実習をしてきました。

2. 農業クラブ活動の取り組み

8月に行われた東海ブロック大会プロジェクト発表会では、三重県代表の生産技術・食品科学合同班の9名の生徒が「酒粕発酵飼料による地域養鶏の活性化を目指して」をテーマに東海ブロック大会にのぞみ、優秀賞に輝きました。また10月に行われた農業クラブ全国大会長野大会の農業鑑定競技に本校から5名の生徒が参加をし、生産コース3年門脇光平君、食品コース3年愛川加奈さん、造園コース3年山口リカルド君、自然コース3年駒谷日菜さん、園芸コース3年川北真穂さんのみごと全員が優秀賞を取ることができました。三重県から6校で20名の生徒がこの農業鑑定競技に参加をし、優秀賞は県で10名で、そのうち本校が5名の受賞となりました。



3. 作文コンクールの取り組み

●毎日農業記録賞全国優良賞受賞
3年生産コース3年杉本隆治君の「あぐり

放浪」が優良賞になりました。父の農作業を手伝ううち、稲作の魅力に気づき始め農業を自分の職業にしようと決意し、稲作への夢を原稿用紙10枚にまとめたものが認められました。本校からこのコンクールに4年間応募をし、3回この賞を頂いています。

●産業教育振興会作文優秀賞受賞

夏休みに10日間ニュージーランドのファームステイに参加をし、感じたことをまとめ産業教育振興会作文審査に応募をした食品コース3年長野葉月さんの作品が優秀賞に輝きました。

4. 「みのりの丘マーケット」の取り組み

販売情報コースで「企業家育成」のプログラムを作成し、地域の手作りマーケット「みのりの丘マーケット」活動を平成17年から取り組んできました。8年目を迎えた今年の秋でその活動も70回を越えることとなり、11月28日にはJA河原田の敷地内で、昭和初期の発動機を使用した餅つきなどが盛大に行われました。

5. フラワーアレンジメントコンテスト 全国大会出場

11月10、11日全国産業教育フェア岡山大会で行われたフラワーアレンジ全国大会に

「みのりの丘」に実ったもの パート2

三重県予選を突破した園芸コース3年横井菜摘さんが出場しました。日頃の学習の成果をこの大会で見事に花開かせてくれました。

6. 地元産業界との連携

今年度も夏季休業中を中心に地元の企業28社に御協力いただき、2年生の販売情報コース22名、食品科学コース31名、3年生の環境造園コース26名がインターンシップを行いました。普段の授業や実習で学んだことを実際に現場で体験をすることで、将来の進路に大変参考になったと思います。

7. 農芸祭

11月17日第64回農芸祭が終日雨が降る悪天候にもかかわらず盛大に開かれました。生徒が栽培してきた野菜類、米、観葉植物、花や加工製品を販売するテントでは、お客さんの出だしはスロースタートでしたが昼頃までには売れていきました。また本校卒業生で構成される昭栄会の植木、卵、野菜類、加工製品、餅、自然薯等を販売する場所でも例年よりは販売量は少なめでしたが販売物自体は好評でした。



平成23年度ラグビー部全国大会援助金会計報告と御礼

同窓会会員様には、平成23年度ラグビー部全国大会出場に伴い、過分のご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。同窓会会員様からの援助金会計報告を次の通りご報告申し上げます。

収入の部（寄付金）		支出の部	
現金	210,000	クラブ後援会へ寄付	1,570,696
振込	1,438,280	必要経費（趣意書、礼状等）	77,584
合計	1,648,280	合計	1,648,280

平成24年2月9日、同窓会よりクラブ後援会へ1,570,696円寄付を致しました。

資金援助を頂きました各会員様へは、同窓会事務局より御礼状を発送させて頂きましたが、発送不行き届きの方がございましたら、お許し下さい。今後とも、ご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

進路指導部より

進路指導部 主任 岩田 礼子

同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
昨年度（平成23年度）卒業生の進路状況は、別表の通りです。
就職においては、リーマンショックに続く東北大地震の影響が著しかった昨年の厳しい雇用状況のなか、同窓生の皆様のお力添えもあり、就職希望者全員が内定することができました。ありがとうございます。
現三生も、昨年と変わらない厳しい雇用状況の中、す

でに9割以上の生徒が採用内定をいただいております。
進学においても、三重大学生物資源学部をはじめ、国立大学に5名の生徒が合格いたしました。専門分野での進学者が確実に増えていることは、生徒自身の努力はもちろんのこと、専門教科の先生方や各教科の先生方の課外指導が確実に定着しているからです。現在三生生の生徒も、スペシャリスト（専門技術者）をめざし、受験勉強だけ

でなく、合格後もそれぞれの課題にしっかりと取り組んでおります。来年も是非よい報告ができるようがんばってほしいと思っています。

さて、日本社会が大きく変容している昨今雇用化が進んでいます。就職、進学にかかわらず、学校教育から職業への移行段階で様々な問題を抱える若者が増え、社会問題となっている状況です。本校の生徒も例外ではありません。このような背景から、生徒はしっかりと職業観・勤労観を持ち、自己の進路を選択決定するための能力を身につけ、社会と向き合っていく力が必要とされています。このための教育がキャリア教育です。

本校でもキャリア教育の一環として、今年度から「ようこそ先輩」事業や「インターンシップ」事業を導入しました。「ようこそ先輩」事業は、本校の卒業生を招いて、高校時代の進路への取り組みや現在の仕事の様子について話をしていた取り組みです。比較的生徒と年代の近い卒業生の方に講師をお願いしています。また、「インターンシップ」事業は、生徒の希望する職種での職業体験を行う取り組みです。営業基盤をお持ちの卒業生の方だけでなく、職場で受入をされている企業がございましたら、是非、ご協力をいただければ幸いです。

平成23年度学科別進路状況							
進路先	生産科学科	食品科学科	環境造園科	園芸科学科	生活文化科	合計	
就職	事業所	26	30	21	29	33	139
	- 自営	1	0	0	0	1	2
	- 公務員	0	0	0	0	0	0
進学	大学	6	3	6	3	4	22
	- 短大	0	1	0	2	10	13
	専門学校	4	6	6	1	24	41
	各種学校	0	0	1	0	1	2
その他	1	0	3	6	2	12	

平成24年度・人事異動

=ご勇退=

実習教諭（農業）加藤 正彦 先生
実習助手（農業）古市 貴之 先生
講師（英語）石原真理子 先生
講師（農業）中井 秀樹 先生

=転出=

事務長 落合四十八 先生
教諭（地歴）地案 敏幸 先生
教諭（理科）西脇あずさ 先生
教諭（農業）鈴木 啓二 先生
教諭（農業）安保 秀光 先生
教諭（農業）山元 通央 先生
学校司書 新庄 聡子 先生

=転入=

事務長 加藤 康久 先生
教諭（地歴）野田 学 先生
教諭（英語）伊藤 美有 先生
教諭（農業）鎌田 高行 先生
教諭（農業）駒田 周昌 先生
教諭（農業）氏本 敦之 先生
実習助手（農業）山下 詞子 先生
実習助手（農業）岩崎 恵理 先生
学校司書（主査）市川 祥子 先生

事務局からのお知らせ

＊会員、旧職員の皆様へご連絡とお願い＊

＊改名、転居などにより、氏名・住所・連絡先等が変更になりましたら、同窓会事務局まで必ずご連絡下さい。お預かりする個人情報、厳正に同窓会事務局で管理を行い会報発送等に使用いたします。ご協力をお願い致します。

＊同窓会又は同窓会事務局の名を語って、電話等により会員の情報を聞き出そうとする事案が発生しております。同窓会からの電話調査や聞き取りは、一切致しておりませんのでご注意ください。

＊同窓会発刊『創立80周年記念誌』を近隣の図書館へ寄贈しました。津市・亀山市以北の公立図書館、大学付属図書館へ寄贈致しましたのでご利用下さい。また、引き続き記念誌を販売しています。お買い求めの方は、同窓会事務局までお問い合わせください。

＊農産物（実習製品）販売所のご案内＊

農芸高校では、生徒の実習成果による農産物（実習製品）を校内で販売しております。（季節によって、新米、野菜、卵、草花、観葉植物、ジャム類、味噌など）

※学校行事等で休みとなる場合もありますので、お越しの際は、学校ホームページまたは、学校までお問い合わせください。

＊会員のみなさまより会報の原稿を募集しております＊

同窓生の皆様より、会報原稿をお寄せ頂いております。次号会報、原稿も募集しております。会員唯一の情報機関誌へ会員みなさまの「高校時代の思い出、近況報告、写真」等をお寄せ下さい。（次号会報の原稿締切は、平成25年9月末日です。ぜひ事務局まで。）

三重県立四日市農芸高等学校 同窓会事務局

〒510-0874 四日市市河原田町2847

TEL 059-345-5021(代)

FAX 059-345-6996



ぜひ！
ご利用ください

販売場所：農業理科棟（新館）1階中央の販売所
販売日時：毎週月曜日と木曜日（午後2時～4時まで）